

郷土芸術賞に輝く

<下>

で活躍。二十九年。プロを目指し十九年に同釧路分校に着任。現在で上京し、東京フィルハーモニー助教授。四十二年と四十九年に管交響楽団ホルン奏者として九年間楽器教育を学ぶため西独に留学しにわたる演奏活動。のち道教育大。た。釧路音楽協会運営委員、道吹札幌分校、同旭川分校を経て、三奏楽連盟講師。四十三歳。

受賞者の横顔

佐藤昌之さん

(音楽)

昭和三十四年、団伊久磨氏の指揮により杉並公会堂で行われた演奏はレコード化され、その中で佐藤さんのホルン独奏を聴くことができる。この「夕鶴」だけで、各地で演奏は百回に達し、演奏旅行には週に一回通い続いた。三十八年、健康上の理由で教育文化に結びついていくと主張する。畑に転じるのだが、それからは郷

ホルン奏者で鳴らす

夢みる『市民交響楽団』

東京フィルハーモニー交響楽団のホルン奏者として九年間にわたる演奏活動の経験を持つことはよく知られている。その間の、思い出に残る演奏といえは、なんとい

には団氏も加わったこともあった。佐藤さんにとっても、記念すべき仕事だったといえよう。多くの人が薫陶を受けた。北大在学中は、札幌音楽院長、荒谷正雄氏に学んだ。東フィルでは当時の常任指揮者である渡辺勝雄氏、高田信一氏、ドイツから来日した客演指揮者、マンフレッド・

土の音楽文化の振興に、音楽教育「中学、高校での音楽の指導を通じて、釧路の音楽的土壌を豊かなものにしていきたい」と意欲は燃えさかっている。

◇ ◇ ◇

「夕鶴」だった。木下順二の代表的な民話劇を原作に得て、日本語の美しさを音楽で表現しえた最初のオペラとして記念碑的な作品である。

昭和六年、釧路市生まれ。道立釧路高校(現湖陵高)二期生。卒業後、北大教育学部に進み、北大交響楽団に育てることだ。交響楽団



初の定期演奏(11月8日)釧路吹奏楽団と佐藤さん